

メイクランド施工コンテスト 2025 総評

今回で第 21 回となりましたメイクランド施工コンテスト、20 年の歴史を繋ぎ更なる 10 年先へ向けて新しいスタートを切った年でもあります。

私がエクステリア（外構）業界へ転職した 40 年前、日本にはオープンエクステリアという言葉さえなく、エクステリアは門扉やカーゲート、ブロックフェンスでファサードを設えるクローズスタイルが当たり前の時代でした。

ところが、イングリッシュガーデンの流行と共にオープンガーデンが開催される様になりエクステリアも隠す時代から魅せる時代へと変化していきました。ファサードを仕切るブロックやフェンス、門扉やカーゲートも少なくなり、植栽や輸入資材などで造られたオープンスタイルが一気に広まりました。

しかし、当時のオープンスタイルは決して安いものではなくむしろクローズプランよりも高額になることも多かったと記憶しています。その後、イングリッシュガーデンの流行も去りオープンという言葉が独り歩きをしながら、使われる素材も安価なものへと変わり、土間や砂利敷きがメインのエクステリアとなってきた訳です。

そもそも、本来のエクステリアは自分の土地や家、家族を守るために敷地の周囲を柵や生け垣などで囲ったのが始まりで、その後耐久性や施工性、目隠し機能などを改良されてきたのです。その様な視点で現代のエクステリアを見ると防犯やプライバシーの観点からも決して望ましいものではないと思いませんか？また、土間主体のエクステリアが続く街並みは無機質で決して美しいものではありません。

一方、遠隔地から司令を受けて素人集団が悪質な罪を犯すニュースが多くなっています。当然ですが施主の防犯に対する意識も高まってきており、住宅でだけではなくエクステリアに対してもセキュリティにたいする要望が高まっています。とはいえ、高い壁で囲めば安心かというところではないのが難しいところです。適度な透け感と敷地内に入りにくい雰囲気作り、そしてエクステリア照明の効果的な使いかたなどを駆使して安全で美しい街並みを我々は次の世代に残していかななくてはなりません。

このコンテストの受賞作品が多くエクステリア設計者、エンドユーザーの皆様の目にとまり、エクステリアデザインの参考になれば幸いです。

今年も審査員を代表して各部門の特徴や傾向を述べさせていただきます。

【門まわり・車庫まわり部門】

全体的にみて床や壁に使う石材やタイルの色はグレー系のものが今年も多かった気がします。建物や街並みにも合わせやすい色なのでこの傾向は今後も暫く続くと思われます。

しかし、あまり偏りすぎるともう少し違うテイストを求めたくなる方もいると思います。そんな時はグレーとベージュの間の色グレイージュでのコーディネートもおすすです。グレーをベースにやや暖か味が加わったファサードの提案は少し優しい印象をあたえてくれます。

また、花壇の中に入れる石も少し暖か味のある色を選ぶことで品の良い雰囲気にすることができるよう。

【庭まわり部門】

庭まわり部門ではナチュラルかスタイリッシュかに大きく分けられてきた傾向がありますが、今年はそれを上手に融合させたプランが多かった様に感じます。ガーデンはあくまで施主の好みや使い方を反映させて計画をしなくてはなりません、植物が好き＝ナチュラル。掃除が楽＝スタイリッシュ。という考え方ではなく長く滞在できてリラックスでき、且つメンテナンスも楽なガーデンが求められているのではないのでしょうか。

【エクステリアリフォーム部門】

エクステリアリフォームは新築よりも難しいと言われます。なぜなら古いものと新しいものを上手く馴染ませるテクニックや、現在あるものを利用しつつ思い出（記憶）を繋ぐなど考えなくてはいけないものが多くあるからです。しかし、エクステリアのリフォームによって建物までが見違えて見える様な作品は近隣にも与える影響が大きく、今後も期待したい部門でもあります。

【ライティング部門】

ライティング部門では高木のライトアップだけではなく蹴込階段の間接照明や壁面への照射も見受けられるようになりました。特に階段は段差を明確にする効果もあり安全面でも優れています。また、壁面や軒天に照射することで小さな明かりでも面が発光することで照明の効果も大きくなりますし、そこに植物の影が映ることでドラマチックな演出が可能となります。

さらに、分譲計画において道路面の照明（街明かり）を積極的に採用することで、街の価値も向上し、防犯面でも効果が期待できます。

【パブリック部門】

この部門は商業施設や公園、分譲住宅などの作品が対象となりますが、戸建て住宅が減少するなかエクステリア業界として注目しなくてはならない部門になっております。特に今回は店舗などのエントランス、店先空間に対するエクステリア的な提案が多かった気がします。多くの方にもっと身近にエクステリアの心地よさを感じて頂けたら嬉しいです。

【プランニング部門】

プランニング部門で大切なのはもちろん設計力ではありますが、そのプランの内容を資料だけで相手に説明し納得が得られるようなプレゼン力も重要です。対面で口頭にて説明できるのであれば図面だけでも良いかもしれませんが、この部門に応募するのであればまずはきちんとした設計趣旨の説明があり、ゾーニング計画から全体の平面計画及び立面計画、更に平面図立面図だけでは説明できない部分のパースが必須です。